

1. 自己評価及び外部評価結果

作成日 平成25年7月28日

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	467200429
法人名	医療法人 同潤会
事業所名	自立の家
所在地	鹿児島県薩摩川内市大小路町5 4番8号 (電話) 0996-22-8611
自己評価作成日	平成25年4月30日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.jp/46/index.php
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 福祉21かごしま
所在地	鹿児島市真砂町54番15号
訪問調査日	平成25年6月7日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当ホームは閑静な住宅地の中にあり、幼稚園、公園、商店街等隣接し、恵まれた環境を有しています。また同一敷地内には永井病院が母体となり緊急時は何時でも受診出来るようになっていました。また往診も行われています。同一敷地内には併設の老人保健施設、デイケア、在宅介護支援センター、訪問看護等があり連携を取り合って安心して生活できる環境となっております。幼稚園とはお誕生会等交流を行っています。菜園畑が2箇所あります。季節の野菜を植え近所の方々におすそ分けをしたり、料理をして楽しんでいます。またお茶のみ会を通じ地域との交流を図っています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

○ホームは母体医療機関や関連施設である老人保健施設・在宅介護支援センター等に隣接しており、近隣には幼稚園や公園、商店街のある閑静な住宅地に建てられている。母体医療機関との連携は緊密であり、十分な支援体制が整い、利用者や家族からの信頼は極めて厚いものがある。

○地域の自治会に加入して、清掃活動や地域の行事には積極的に参加しており、ホームで定期的開催されるお茶のみ会には多くの地域の方々が来訪されるとともに、日常的に菜園や花壇の手入れ、散歩の際に親しく挨拶や会話を交わすなど地域とのつながりは深いものがある。また、近隣の幼稚園とは毎月お互いの行事で相互に訪問して交流し、利用者はこれらの機会を楽しみにして日々を過ごしている。

○運営推進会議は、ホームで年間テーマを設定して、多くの委員の参加を得て定期的開催されている。ホームの現況や活動報告、事例を基にした勉強会及び問題点や設定テーマに関する意見交換が活発に行われ、得られた意見や提案を職員で共有して、具体的に日々のサービス向上や業務の改善に役立てている。

○管理者は、職員とのコミュニケーションを非常に大切にしており、日常のミーティングや対話とともに、日々の状況を毎日夕方、全職員に申し送り簿に記入してもらい把握に努めている。得られた意見や提案は必要に応じて代表者とも相談し、業務改善や利用者へのサービス向上に可能な限り反映するように取り組んでいる。

○ホームの災害に対する備えも積極的である。定例の火災を想定した避難訓練を年2回実施するとともに、毎月のように地震や風水害も想定した自主防災訓練を実施している。また、スプリンクラーや自動通報装置の設置、食料や飲料水の備蓄も問題はなく、運営推進会議でも避難経路の確保や訓練の工夫等について話し合いが行われてレベルアップに努めている。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員はその理念を共有して実践につなげている	理念は3箇所に掲示し毎週1回理念を復唱・確認。利用者を中心とした生活リズムができるよう、また地域の人達との交流が図れるよう朝夕ミーティングを行っている。	ホームの開設時に職員全員で作成した理念を基に、地域に溶け込んだ暮らしを目指し、利用者個々に合った生活を送れるように支援に取り組んでいる。理念は掲示して、毎週月曜日の朝礼では理念の意義を確認し合い、ケアへの反映に努めている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人員として日常的に交流している	自治会に入会している。地域の人達と合同の避難訓練あり。若竹会(ボランティア)、寿高齢者クラブ、のぞみ幼稚園等(お誕生会、お茶のみ会、地域の行事、泰平寺通りの清掃、花植活動)で交流有	地域の清掃活動や祭り・催し物等には積極的に参加しており、近隣の幼稚園とは毎月のように相互の行事で行き来するなど交流は活発である。日常的に散歩や買い物に出かけて地域の人々と挨拶や会話を交わし、ホームのお茶のみ会や花壇の手入れ等にも来訪者が多く、利用者はこれらの機会を楽しみにしている。	
3		○事業所の力を生かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて生かしている。	「お茶のみ会」や「運営推進会議」に地域の方々も参加頂きスライド等を使った勉強会を行ったり、「自立の家だより」を自治会で回覧し認知症・施設に対する理解を深めていただくようにしている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	1年間のテーマを設定し民生委員、市行政担当者、町おこし会、寿高齢者会、栄養士、家族、等が参加して話し合いを行っている。特に火災に関する問題で意見交換が多く交換で向上を図っている。	会議は年間のテーマも設定して、利用者や家族・民生委員・地域住民・市職員等が参加して定期的に開催されている。ホームの現況や活動報告、認知症や感染症等の勉強会及び避難訓練をはじめとする問題点に関する意見交換が活発に行われ、得られた意見や提案を職員で共有して、具体的に日々のサービス向上や業務の改善に役立てている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連携を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	薩摩川内市サービス担当者会議の研修に参加し情報を得るようにしている。分からない所は市の担当者に連絡をシアドバイスいただいている。生活保護受給者2名あり、市の担当者と連絡を取っている。	市担当者には毎回の運営推進会議に出席して頂くとともに、電話や訪問で頻りに利用者の暮らしぶりやニーズに関すること、また各種の手続き上の相談ごとに助言・対応して頂くなど、協力関係を築くように積極的に取り組んでいる。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	「身体拘束・高齢者虐待廃止委員会」あり。身体拘束・虐待は言葉による虐待・拘束もあるので朝・夕の申送りの時に話し合いを行っている。法人の研修会では「身体拘束廃止について」の研修を行っている。部署内でも毎月1回職員全員でミーティングを行なっている。	居室や玄関等の施錠は行わないケアに取り組んでおり、職員は連携して利用者の見守り方法の徹底に努めている。特に言葉による拘束の防止を含む身体拘束については、毎月の業務ミーティングや委員会、法人全体の研修等で繰り返し理解を深めるとともにケアへの反映を図っている。また、近隣の方々をはじめ、警察や消防・民生委員等も見守りや声かけをしてもらえるような関係づくりに取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待は特に言葉(日々にげなく使っている言葉で自尊心を傷つける場合あり)や態度による虐待があるので、その都度話し合いをおこない注意をしている。職場内で毎月1回話し合いを行っている。虐待防止の研修会に参加あり。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	当施設でもこの制度の利用者1名あり。当所職員も市の研修会を受講し資料等を基に職場内で勉強会をしている		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	入所時に、利用者や家族へ重要説明事項を説明し、同意書に署名捺印をいただいている。退所時も利用者、家族と話し合いの上、その人に適した対応をしている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	日常の利用者間の会話や家族の面会時、家族会などに意見や要望をうかがうようにしている。意見・要望は職員全体で話し合いをし対応するようにしている。意見要望ノートを窓口に置いている。	利用者の思いや意見は日常会話や所作の見守りなどで、ご家族とは毎月の利用料金支払い時や来訪時およびクリスマス会時の家族会の際に、話しやすい雰囲気作りに努めて多くの意見を頂いている。これらは生活記録や申し送り簿で共有を図り、朝夕の申し送りや毎月の業務ミーティング等で必要な対応について協議して、本人や家族に速やかに報告してサービスに具体的に反映できるように取り組んでいる。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	毎月1回全職員で業務上の問題点や改善に向けてのミーティングを行っている。施設内で判断できないことは、運営者に相談し意見をもらっている。	管理者は、朝夕の申し送り時及び毎月の業務ミーティングで職員の意見や提案を聞き取るとともに、日々の状況を毎日夕方、全職員に申し送り簿に記入してもらっている。管理者は得られた意見や提案を、必要に応じて代表者とも相談し、業務改善や利用者へのサービス向上に可能な限り反映するように取り組んでいる。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	職員の資格取得に向け支援を行っている(資格取得の為に夜勤等勤務時間の調整及び回数軽減等)就業規則により労働基準法にのっとった職場環境を整備し健康診断も定期的に行っている。取得後適所に配置		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>法人内で毎月、看護介護技術、感染症、安全対策、救急法、接遇などについて研修会を行い、また外部の研修会にも積極的に参加し職員の育成に努めています。職場内でも同様の勉強会を行っている。</p>		
14		<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>鹿児島県認知症グループホーム連絡協議会、いずみ川薩支部グループホーム連絡協議会、薩摩川内市事業所連絡会等の研修会に参加。また出水のグループや他施設とも交流あり。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	不安の強い利用者の場合入居前に数回足を運んでいただき馴染の関係を作り不安軽減を図っている。本人家族を含め生活上の問題点・希望をケアマネジャー・情報提供書等により情報収集し職員間で話合っている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族が抱えている問題不安要望等、担当ケアマネジャーを含めてどのような支援が良いか情報提供書等により情報収集し話合っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談時に本人、家族及び担当ケアマネジャー(情報提供書等)と話合い、利用者にとってどのような支援が一番良いかを総合的に判断し必要なサービスの支援をしている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	食事の準備。あとかたづけを職員と一緒にしたり、洗濯物の取り入れや洗濯物の仕分けやたたみ等一緒に行っている。菜園畑の手入れの仕方や草取りなども一緒に行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を介護される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用料金は窓口で支払っていただき、最低でも月1回は面会をしていただいている。面会時には本人の生活状況・健康状態(自立の家だより・運営会議報告書配布)等伝えている。家族会あり。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	職員同行の下、自宅や近隣の馴染みの場所、店等に出かけ知人友人と交流ができるように支援している。近隣を散歩したり地区のレクリエーションやお茶のみ会に来ていただいたりして交流を深めている。	入所時の聞き取りや日常会話から、本人が希望する商店・地域の催し物・一時帰宅・近隣のドライブ等を把握して、必要に応じてご家族とも相談のうえで可能な支援に努めている。ご家族や利用者の知人・友人の来訪時には、居室やリビングでゆったりと過ごせるように配慮している。近隣の散歩の際やホームでのお茶のみ会でも馴染みの方々との会話を楽しんで頂いている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	互いの部屋を訪問して世間話などをされ洗濯物はお互いの名前を呼び合って仕分けし、他の人の洗濯物をたたんだりして生き活きとした表情で助け合っている。座席も関係がうまく保たれるように考慮している。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用〈契約〉が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	当法人の病院・老健施設等に退所されることが多く、その時は情報提供書を必ず添付し利用者の状況が把握できるようにしている。その後の状況を相談員や家族に聞いたりして支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	入居者で帰宅願望の強い人がいる。夫がデイケアを利用。利用日に面会をし落ち着かれるように支援。意思疎通の困難な方はご家族と相談しながら支援。個々のケアについては朝夕のミーティングで話し合いをし支援に努めている。	入所時の本人や家族からの聞き取りや、日常の言葉やしぐさから思いや意向を把握するように努めている。これらの情報は生活記録や申し送り簿、朝夕のミーティングで共有を図り、必要な対応を検討して、ご家族とも相談しながら利用者にとって最良の支援となるように努力を重ねている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活暦や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	自宅で暮らしていた時の生活暦や生活状況を把握し家で過ごしていた環境になるべく沿うよう、なじみの物タンスや小物類を持ってきていただいたり畑仕事をしていた方が多いので畑で野菜を作ったりして過ごしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	各人の生活リズム(食事・睡眠・排泄時間)等を把握し、行動・動作・会話・表情等を通して個々の過ごし方を支援している。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人家族の状況や希望を聞いたり、ケアマネジャー、主治医など情報交換をし課題を分析評価、職員間で話し合い総合評価等行っている。	本人・家族の意向や希望、主治医をはじめとする関係職員からの意見も含めて話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映させて利用者本位の介護計画を作成している。また、定期的な評価や見直しとともに、利用者や家族の要望や変化に応じて、職員の意見や提案も反映した計画修正を適切に行っている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	生活状況を各個人別に記録している。また随時発生した問題点や伝達事項等は申し送り用のノートに記入し、皆で共有し話し合い介護計画に反映している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	生活状況や健康状態など面会、電話、メール、自立の家だより等で連絡している。その他病院受信等必要に応じて連絡を行っている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らし方を支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	老人会・自治会・民生委員・町おこしの方々と交流あり、図書館利用あり。相談・支援をいただいている。消防署は毎年避難訓練で指導していただいている。警察は必要に応じて相談をしていきたい。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	併設の病院にて定期的に受診し、他科受診(専門病院)が必要な場合は、本人、家族、主治医の意見・希望を聞き受診の際は必ず情報提供書を添付し、支援をしている。	現在は全員が隣接した母体病院をかかりつけ医としており、毎週往診を受けられることと緊急時対応も容易であることが安心して過ごすことにつながっている。専門医の受診は情報提供書を活用して情報交換に努め、ご家族へも電話や来訪時に適切に報告を行っている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日常の利用者の健康状態等は、朝夕の申し送り簿で情報を伝達し看護職員に伝え医療機関と連携をとって健康管理をしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者が入退院の際には情報提供書を添付し、関係機関と情報交換をし、ケアが円滑に進むよう支援している。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人や家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に重要説明事項について説明している。重度化や終末期の方については、本人、家族、主治医と十分話し合いをし適切な医療機関へ情報提供書を添えての支援を行っている。	重度化や終末期のケアについては、入居時にホームで対応できる基本方針を重要事項説明書で説明し同意を得ている。様々な変化の都度、本人や家族および医師をはじめとする関係者と連携を図るとともに、重度化による退所の際もホームで行える可能な限りの支援ができる体制を築いている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、すべての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	法人内で定期的に研修会あり、人工蘇生術、AED、誤飲事故等について実技などあり。職場内でも定期的に救急時の対応について勉強会・訓練をしている。緊急時はマニュアルによって対応している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	13	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>消防署の指導の下年2回火災避難訓練を行行っている。内1回は近隣と共同で実施。また地震、火災、風水害等夜間想定も含めているような場面を想定し毎月1回は避難訓練をおこなっている。非常食・飲料水は3日間分備蓄あり。</p>	<p>地域の消防署や住民の協力を得ながら火災を想定した避難訓練を年2回実施するとともに、その他の月は毎月、地震や風水害も想定した自主防災訓練を実施している。また、スプリンクラーや自動通報装置の設置、食料や飲料水の備蓄もなされ、運営推進会議でも避難経路の確保や訓練の工夫等について話し合いが行われている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	法人内で個人情報保護法の研修会あり。職場では朝夕の申し送り時や職員会議で話し合いを行っている。入居時に書類により本人ご家族に説明。食べこぼしや尿失禁等があった場合もそれとなく声かけし利用者の誇りを傷つけないよう注意している。	居室の保護や排泄時・入浴時・食事の食べこぼし等、利用者の誇りやプライバシー確保のための声かけや対応を職員が連携して取り組んでいる。関連する研修やマニュアルの整備もなされ、日々のケアに確実に反映できる体制が築かれている。また、各種の個人記録も適切に管理されている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の中で利用者の会話・相談等で思いを把握し散歩(場所を選ぶ)、買物(好きな服を選ぶ)、レクリエーション(折り紙の好きな色を選ぶ)、園芸活動(草取りをしたい)を支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	生活リズムを作る為ある程度の時間的な流れはあるが、個人の心身状態等を考慮し体調に合わせて過ごすように支援。、体調が悪い人や食べるのに時間がかかる人の場合は、ゆっくり食べられるよう時間を配慮		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるよう支援している	各室、及び共有の場所に洗面台があり、整髪・整容していただいている。自分で出来ない利用者は職員が介助を行っている。理・美容室についてはご本人家族の馴染みの所に行ってる。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事は季節感等考慮。行事弁当、代りご飯・ちらし寿司・豆ご飯等、畑で穫れた野菜等利用。給食委員会で利用者の希望やメニューの内容について検討あり。地域の人の招待で公園での食事会あり、食事の準備、食事、後片付等一緒にしている。	日常会話で把握できた利用者の好みを栄養士に伝え、献立や味付けに反映させている。菜園での野菜の収穫や食事の準備や後片付けなどを利用者と共にを行い、食事を楽しみながら行うように努めている。季節の行事食や弁当持参の花見、家族も参加した誕生会など、利用者の楽しみにつながる工夫も行っている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	献立はカロリーバランスを栄養士が計算作成。利用者の食事量や水分量は個人記録に記載、職員全員が把握、摂取量によっては声掛けを行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の臭いや汚れが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後全員歯磨きを行い、入れ歯等の取り外し洗浄等それとなく声掛けしながら、付き添い援助している。入れ歯は入れ歯洗浄剤で清潔保持に努めている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	昼間は尿失禁されない(少ない)が夜間尿失禁のある方については昼間は布パンツ夜間は紙パンツ着用、自発的にトイレに行かない方は定時声掛け誘導。尿失禁が減少してきた人は布パンツに変更。個人記録で排泄パターンを把握。	排泄チェック表の活用や適宜の声かけ誘導で、利用者の不安や羞恥心の軽減も兼ねた排泄の自立に向けた支援を行っている。これらの工夫はケアプランにも反映して、排泄用品の選択をはじめとして、個々の利用者に合わせて対応となるように取り組んでいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄チェック表で把握。身体的な問題はないか食事量、水分量(個人K記録にて把握)をチェックし運動量に関しても検討、身体的なことは主治医と相談、食事の関する事は栄養士に相談し対応している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援している	入浴は個人の希望に合わせるようにしている。ためらう人については時間をおき再度声え掛け、入浴される場合あり。一人曜日でこだわる人あり。一人ずつゆっくり入浴できるよう支援している	入浴についての希望は本人より聞き取り、健康状態や安全面に配慮しながら、場合によってはシャワー浴や清拭に変更することも含めて入浴が楽しめるように支援している。入浴を拒否される場合には、言葉かけの工夫や時間帯を変更するなど気分転換を図るようにしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の睡眠状態を把握し、昼夜逆転状態にある方は昼間の散歩・体操など身体を動かす事をすすめたり、また体調や食事量・水分量にも考慮している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員は薬局から出される説明書や医師の説明により効能・副作用等を理解し内服後の観察及び異変が無いか注意している。異変が見られた場合は直ちに看護職員を通じて医師に連絡をとっている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活暦や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居時に本人家族に趣味・生活暦を聞いている。畑仕事に従事していた人・編み物が好きな人・歌が好きな人あり、なるべく個々に合わせた日常生活を送れるように支援している。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるように支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	日常的には日用品の買物、散歩、畑、公園などへ出かけている。藤川天神や寺山公園等希望が多いので毎年出かけている。ご家族や地域の人達にご協力をいただき外出支援している。	利用者の健康状態や天候を見ながら、時には地域の方々の協力も仰ぎながらホームの花壇や菜園の手入れ、本人の希望に沿って散歩や買い物・近隣のドライブ等に出かけている。また、地域の祭りや催し物、近隣の幼稚園の行事、家族も一緒に季節の花見など外出を数多く企画して、可能な限り楽しく過ごせるように工夫・支援を行っている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>ご家族からお預かりしているお金は同意の下施設で管理しているが、自分で持ちたいという人には一部お預けしている。買い物時自分で支払出来る人には品物を選び自分で支払をしていただきできない人はレジでお金を渡し支払いをしている。</p>		
51		<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している</p>	<p>毎月料金請求時遠方のご家族には近況についてお知らせをしている。またインターネットで写真やメッセージ近況などを送り交流をしている。日頃電話をかけてい方については支援し、また年賀状、暑中見舞い等も支援している。</p>		
52	19	<p>○居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱を招くような刺激（音、光、色、広さ、湿度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>エントランスの花壇には季節の花を植えプランターを配置している。玄関と利用者がくつろぐホールには季節を感じられるような花々を飾っている。ホールに大きな窓を設け明るくし、室温、湿度を調整、換気は定期的に行っている。壁絵は四季おりの物を作り掲示する。</p>	<p>リビングや廊下の壁には、利用者と職員が共同で作成した季節感のある貼り絵や行事の写真などが飾られ、落ち着いた雰囲気の中でゆったりと過ごせるように工夫されている。天井は高く明るく解放感があり、室温や換気調節にも十分に配慮が感じられる。利用者にとって不快に感じる音や匂いもなく、気持ちよくくつろげるような環境である。</p>	
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>ポーチにはベンチを置き、玄関にはソファを置き（履物の置き替えやゆっくり過ごすため）食堂・居室等にソファ・畳椅子等を置きスペース作りをしている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時馴染みの品物(時計・小タンス・アルバム・ぬいぐるみ・くし・裁縫箱)等を持ってきていただき、家にいた時のような環境作りを支援している。仏壇を置き、朝夕お祈りをされている人もいる。	居室にはホームが準備したベッドやタンス・洗面台が設置されている。本人や家族の希望に合わせて写真やぬいぐるみ・時計・日用品などを自由に持ち込んでもらい、本人が自分の部屋として落ち着いて生活できるように支援している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室で洗面ができるようになっている。場所が分からない人には表示あり。館内はバリアフリー、ポーチ・階段・トイレ・廊下には手摺有。浴室は手摺・滑り止め、浴槽は深い為椅子を置いて調節している。居室内は洗面台を設置し洗面歯磨等できるようになっている。		

V アウトカム項目

56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1 ほぼ全ての利用者の
			2 利用者の2/3くらいの
			3 利用者の1/3くらいの
			4 ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1 毎日ある
			2 数日に1回程度ある
			3 たまにある
			4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿が見られている。 (参考項目：36, 37)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない

61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により安心して暮らしている。 (参考項目：28)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1 ほぼ全ての家族と
			2 家族の2/3くらいと
			3 家族の1/3くらいと
			4 ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1 ほぼ毎日のように
			2 数日に1回程度ある
			3 たまに
			4 ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)		1 大いに増えている
			2 少しずつ増えている
		○	3 あまり増えていない

		4 全くいない
--	--	---------

66	職員は、生き生きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1 ほぼ全ての職員が
			2 職員の2/3くらいが
			3 職員の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。		1 ほぼ全ての家族等が
		○	2 家族等の2/3くらいが
			3 家族等の1/3くらいが
			4 ほとんどいない